

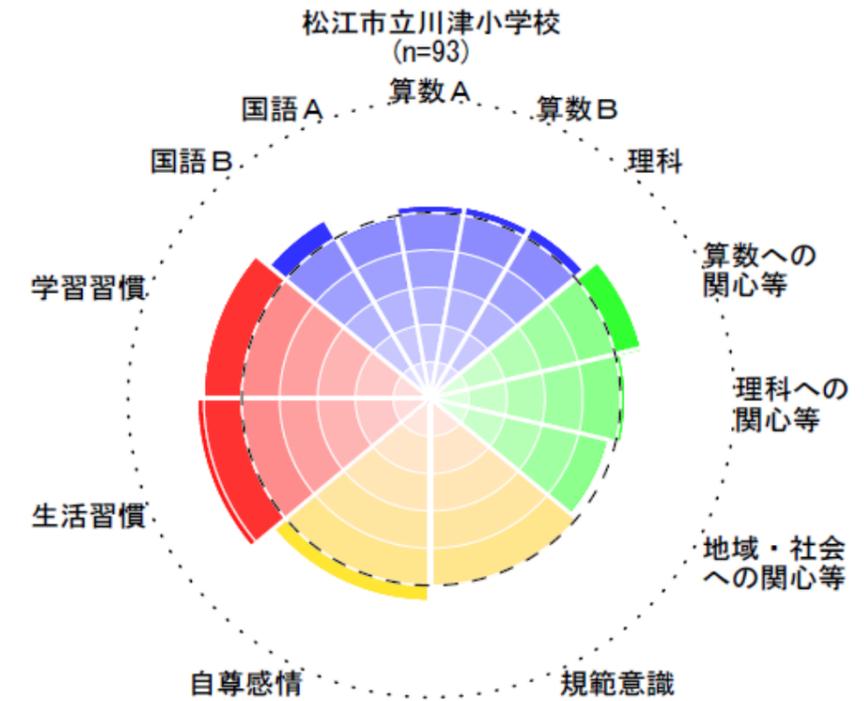
平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立川津小学校）

平成30年9月25日

(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
国語	A (基礎) ○「書くこと」の領域の正答率が、全国より、6.8ポイント、県より8.2ポイント上回っており、書く力がついてきている。 ●問題文の読み取りや、物語文で情景描写をもとに登場人物の心情を読み取ることが苦手である。	・どの学年でも読書習慣をつけ、理解語彙を増やす。 ・国語の読み取りの学習に丁寧に取り組む。
	B (活用) ○すべての領域で全国を上回り、特に、「書くこと」の領域は、全国より、6.6ポイント、県より6.3ポイント上回っている。 ●複数の文章を関連づけて答えを記述する問題は、難しい。	・感想等を記述するだけでなく、様々な条件に合った文章を書く活動を取り入れる。 ・児童が書いた文章は、必ず評価して朱書きを入れ、的確な文章が書けるようにする。
算数	A (基礎) ○すべての領域で島根県を上回っている。「量と測定」は、全国より、3、1ポイント高い。 ●「図形」や「数量関係」は、市や県を上回っているが、全国よりやや低く、問題文が長文になると解答が難しい。	・教科書やドリルだけでなく、発展的な問題にも取り組み、長文の問題も読み取れるようにする。 ・単純な立式により答えを求めめるだけでなく、式変形ができる力や式の意味を捉え、説明できる力をつける。
	B (活用) ○すべての領域で全国を上回り、理解したことを数や、ことば、式を使って記述する力が付いている。 ●複数のもの(グラフ、表、文章)を関連づけたり、比較したりして問題文を読み取ることができにくい。	・様々な視点から、グラフや資料を読み取り、表現する学習を行う。 ・問題文に線を引いたり、図示したり、内容を整理したりして、正確に読み取る力をつける。
理科	○すべての領域で全国、県、市を上回っており、特に、「エネルギー」領域は、全国より6ポイント高い。 ●評価の観点別では、「観察・実験の技能」を問う問題の正答率が低い。	・問題文を読む際に、線を引き、丁寧に読むよう指導する。 ・実験や観察の技能を高めるために、一人一人が行うことができるように、時間や方法を工夫する。

(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



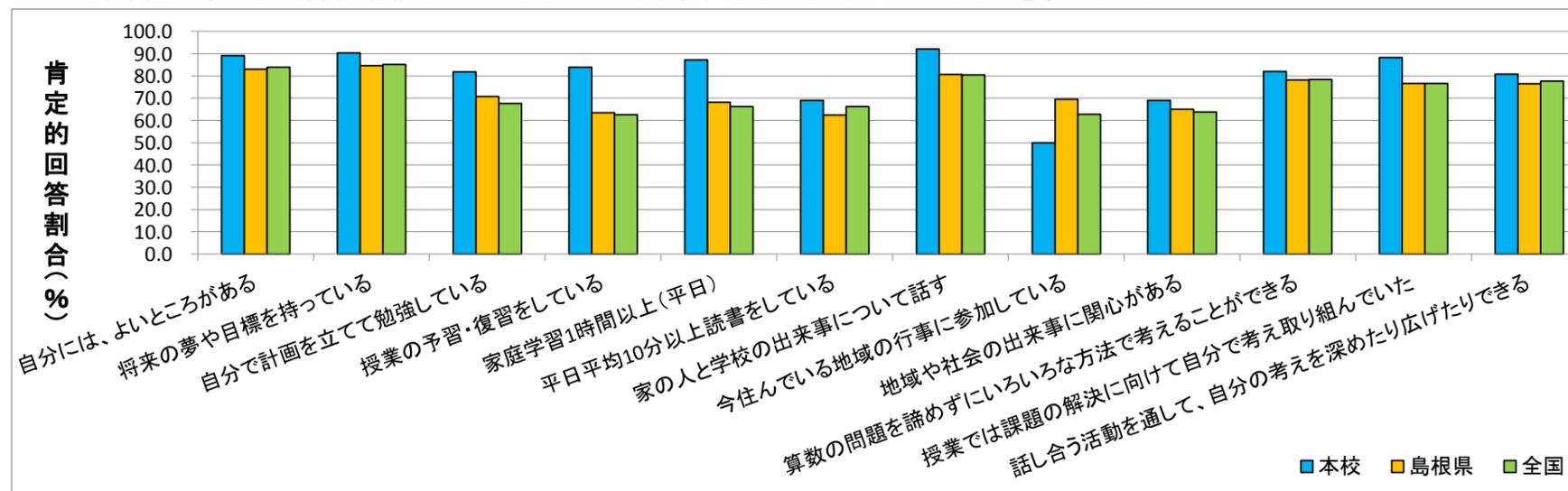
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
○自尊感情が高く、夢や希望を持ち、基本的な生活習慣や家庭学習の習慣も概ね身につけている。 ●学んだことを他教科や生活場面で活用したり、読書に発展させたり、将来に役立たたいという思いは弱い。	・読書量を増やす取り組みをする。(身近なところに、本、子ども新聞などを置いたり、学習関連の本の紹介をし、興味を広げる。) ・身に付けたり知識を活用できるようにするために、各教科の内容に軽重をつけて取り組む。

(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・自分の考えを、相手に伝わる声や話し方で、話す力をつける。 ・全学年で学年相応の読書ができるように読書指導を継続したり、図書館利用を促進する。
--

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



【参考】

○平均正答率

		本校	松江市	島根県	全国
国語	A	70	70	68	70.7
	B	59	57	55	54.7
算数	A	64	62	61	63.5
	B	53	50	49	51.5
理科		62	59	58	60.3

受検者数 93人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。